



The Y's Men's Club of Sendai

仙台ワイズメンズクラブ 2016 年 7 月報

- 国際会長主題 「私たちの未来は、今日より始まる」
- アジア地域会長主題 「ワイズ運動を尊重しよう」
- 東日本区理事主題 「明日に向かって、今日動こう」
- 北東部長主題 「明日のために、いま土台を築こう」
- クラブ会長主題 「笑顔で今活動を」～出愛・ふれ愛・学び愛～

- 会 長 吉田一恵
- 副 会 長 佐々木絹子
- 書 記 横倉 純
- 会 計 田中京子
- ネット会長 田村成子
- 担当主事 鈴木陽子

仙台クラブ事務所 : 〒980-0822 仙台市青葉区立町 9 番 7 号 仙台YMCA内
 仙台クラブ Facebook: <https://www.facebook.com/sendaiys/>

<今月の聖句>

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ」こうして光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一日の日である。

創世記 第1章1節～5節

7月例会について

(総会)

日時 : 7月19日(火)

19:00～21:00

会場 : 仙台YMCA 2階会議室

内容 : クラブ総会(会長引継ぎ)

及び、担当主事引継ぎ

15-16 活動報告・決算

報告・監査報告

16-17 活動計画・予算

(案)提案

担当:永井孝憲・吉田一恵

司会:横倉 純

食前感謝:加藤雄一



巻頭言「笑顔で今活動を」

～出愛・ふれ愛・学び愛～

16-17会長 吉田一恵

主人が愛したワイズメンズクラブ、私の宝物の一つワイズの仲間の人々との関わりを失いたく無く、ワイズ会員になりました。私も会員になって漸く小学二年生に進級しました。

東日本区 20 周年の年、仙台クラブは来年は古稀を迎える歴史のある伝統のクラブです。そのクラブの会長と言う大役を受けることになりました。

しかし、メネット会員で活動していた頃とは今抱えている問題は深刻であり、果たして解決の道を見出す手助けをどの位出来るか自信はありませんが、会員の皆様のご協力を頂きながら邁進いたしたいと思っておりますので協力方宜しくお願いいたします。

会長主題「笑顔で今活動を」～出愛・ふれ愛・学び愛～ 我が仙台クラブも会員減少、高齢化、財政の逼迫等に直面しています。

利根川恵子東日本区理事の重点事項の中の会員増強、我が仙台クラブにとってもここ数年の課題です。会長主題もそれに一步でも近づきたい気持ちを掲げました。それには出会いを大切に、そしてふれ合い、お互い学び合い会員増に繋がって欲しいなと思っております。それにはまず例会は明るく楽しく、仙台クラブに入会したら「こんな事してみたい」と一人でも多くの方が希望を持って入会して頂ける様なクラブに姿を変えることが第一歩だと思います。また、復活したブリテンに会員全員参加を目標に例会等になかなか参加出来ない方にもブリテンに参加していただく為に「巻頭言」の欄を復活させ、会員とメネットの「私の好きな言葉」「強調月間のポイント」の欄を新に設け、この一年希望を持って活動いたしたいと思います。メンバー一人ひとりが自分の出来る範囲で明日に向かって笑顔で活動をして頂ける事をお願いいたします。

6月例会報告

在籍者	19名
出席者	11名
メイキャップ	0名
ゲスト・ビジター	1名
メネット・コメント	2名
出席率	57.9%
ニコニコ	12,000円

6月例会報告

日時：2016年6月21日（火） 18:30~20:30

会場：中華料理「紅龍・大町店」

出席者：阿部・今澤・岡・岡メネ・小幡・加藤・佐々木・高松・田村メネ・永井・中川・横倉・吉田

ゲスト：鈴木冲さん

内容：司会は吉田ウィメン。永井会長より「東日本区大会に出席の皆さんお疲れ様でした。皆様のご協力により滞りなく年度末を迎えられたことに感謝申し上げます。元気よく新年度を迎えましょう。」と挨拶があった。その後、永井会長、田村メネット会長、中川北東部長、及び今期で担当主事を終える加藤雄一さんの、4名に感謝の花束と、ねぎらいの拍手が贈られた。



岡メンの食前感謝と乾杯にて食事、久々の中華料理に、東日本区大会・長野土産の日本酒あり、中華には紹興酒といただきながら、一年を振り返り、誰が古希で喜寿で傘寿でと高齢化を地で行く会話で盛り上がり、楽しいひと時となりました。

また、過日のバザーではこれまでで一番の益金が出る見込みと報告があり、誕生祝い、ニコニコと続き、中川北東部長の閉会挨拶で閉じられました。



7月第2例会報告

<7/5(火) 今澤・佐々木・鈴木・永井・中川・横倉・吉田>

- ① 7月例会（総会）は上記の通り。会計関係では未納1名も繰越金あり年会費は今年度も5万円とする。尚、三上さんから休会願いがあり新年度は1名減となる。年間活動計画、Yプログラム等の担当割振り、プリテン巻頭言（復活し）各月の割振りを確認。吉田会長主題は「笑顔で今活動を」～出愛・ふれ愛・学び愛～ となります。会長の豊富については総会の席上にて語られます。
- ② 7/1（土）西中田保育園「ワイワイなつまつり」には今澤・佐々木・永井の3名が支援参加する。
- ③ 7/9（土）北東部引き継ぎには、中川・横倉・吉田の3名がもりおかクラブを訪問し行う。
- ④ 第1回北東部評議会：7/16（土）13:00~盛岡市にて。吉田・佐々木・横倉の3名が出席予定。
- ⑤ 7/13（水）バザー第4回実行委員会（振り返り）には横倉・吉田が出席予定。安全面から、うどん・そばの調理場をどこに設定すればよいか等検討課題あり。
- ⑥ 8月合同例会（石巻広域C入り4クラブ）は青葉城クラブが幹事で、8/19（金）JALシティホテルにて開催される。
- ⑦ Yの社内誌、スタッフレターへの自己紹介原稿、今回は永井会長が担当する。



長崎原爆爆心地整地作業に参加して

岡 久雄

今年5月、伊勢志摩サミットに参加したオバマ大統領は、米国大統領として始めて、広島原爆、爆心地の平和公園を訪れ、二度とこのような悲劇が繰り返されないようにと、頭を垂れた。

私は1949年8月、東北大学生の時、国際クリスチャンワークキャンプの一員として、長崎原爆爆心地の整地作業に参加した。

仙台から汽車を乗り継ぎ、1945年8月米軍原爆の投下により、大きな被害を被った長崎へ向かい、日本を縦断する長い鉄道の旅を続けた。

戦後間もなく、車窓から望む、数々の被災地の様は、まさに「国破れて山河あり」で、焼け跡に点在するバラックの彼方に、美しい山並みが見え隠れしていた。

中でも、広島付近を通過した際、車窓から広島市内を凝視した時、私が海軍時代に聞いたあの恐ろしい特殊爆弾による、凄まじい被害を、始めて目にして、声も出なかった。

その広島市内を、健気にも走っている市電を見つけ、100年間生物が生息しないともしられた、この地にも、漸く復興の槌音が聞こえたようで、嬉しかった。

一昼夜以上経って、列車は九州に入り、鳥栖で長崎本線に乗り換え諫早駅で下車した。当時、ワークキャンプの宿舎は、被害の大きな長崎ではなく、長崎に近い諫早市の鎮西学院高校の寄宿舎が提供されていた。

鎮西学院高校の校長は、原爆による白血病患者であったが、2週間のワークキャンプ中、誠実に私たちの世話をしてくれた。(翌年、この校長の訃報に接し、悲しい思いをした。)

参加者は総勢約30名、うち約半数が日本人学生、残りは、既に日本に宣教師見習いとして派遣されていた若い米国人の他、ドイツ、中国などの学生も加わっていた。

ワークキャンプ最初の日、夫々が自己紹介(期間中の会話は全て英語)したが、面白いことに、戦争中、メッサーシュミット戦闘機に搭乗していたドイツ人学生、グラマン戦闘機搭乗の米国人宣教師、そして日本海軍零戦搭乗員であった日本人学生が、揃って参加していた。彼らは、「昨日の敵は今日の友」とばかり打ち解け、キャンプ期間中睦まじく作業に携わっていた。

翌日速く、バスと汽車とを乗り継ぎ、長崎爆心地に赴いた。途中、列車の窓から見えてきた、爆心地に近かった三菱製鋼所では、これまで見た事もない、工場の鉄骨が鉛細工のように捻じ曲げられている、凄まじい原爆威力の被害を目の当たりにして、一同言葉少なく眺め続けた。

やがて、現在、大きな平和の像が建てられている原爆投下地点に到着。当時、その一面は赤茶け、荒れ果てていたが、我々はそこを、戦前の日本流に、スコップとシャベルとモッコとを使って、綺麗に整地し、木造のベンチなども作り、市民憩いの公園とする作業を進めて行った。

作業の合間、参加者の間で語られた話題は、矢張り、原爆投下の決定を下した米国の、判断の是非であった。更に、「敵をも愛せ」「右の頬を打たれば、左の頬をも向けよ」などとの、キリストの教と、この戦争勝利の為使われた手段との矛盾を、米国の宣教師たちはどう考えているのかなどであった。

私と宿舎で同室であった、旧制五高生の高久文麿君とは同意見で、米国はその罪を認めるべきと彼らに迫ったが、当時、参加の殆どの米国人は、現在でも米国の世論で主張されているように、「あの戦争を一日でも早く終結させる為の手段として、致し方なかったのだ」と主張して憚らなかった。

ワークキャンプ後半、整地作業も大分進展した頃、私は作業の監督に選出された。私たち日本人と違い、米国人始め外国人たちは、お喋りが大好きで、作業中でも良く大きな声で喋っていた。私は監督としての当然の責務として、休憩が終わり作業開始の予定時間になれば、笛を鳴らし、「レッツゴー、」と大声で、キャンパーたちに、割り当てられた作業場所に戻ることを督促するが、中々腰を挙げない者もいる。そういう時に、私は容赦なく、その者たちに直接作業へ戻るよう声をかけるので、何時の間にか、私を「厳しいボスだ」と言う声がキャンパーたちの間に起こってきたようだ。それでも、最後にはお互いの国の文化や本人たちの経験の違いを理解しあい、無事作業は終了した。

作業期間中の日曜日には、数班に分かれて、長崎市内の、馬町とか銀屋町の教会で礼拝に参加し、礼拝後には教会員宅を訪問し、そこで昼食を頂いた。その折、お土産に、進駐軍から特別に分譲された、食パン、オートミルとか、チーズ、干し葡萄などを持参したので、当時日本人の口には入る事のない大変貴重な食料として喜ばれた。勿論私にとっても初めての御馳走であった。

当時、私は英会話が苦手で、ワークキャンプ期間中、会話にはいろいろ苦労したが、英会話は、用語や文法も大切であるが、それ以上に、自分の意思を相手に伝えるための強い意志と工夫、そしてユーモアも交えた対話センスが大切であることを学んだ。

西中田保育園「夏まつり」に参加して

佐々木絹子

7月9日（土）西中田保育園の「ワイワイ夏まつりに」永井さん、今澤さん、それと友人の小野ひさ子さん共々参加をしてきました。

担当ブースは、ワイズコーナーで食べ物の提供です、園児さん子供たちと出愛、ふれ愛をし、また、メネット会の絵本贈呈式にも立ち合わせて頂き、皆さんからの笑顔を受け取りました。

ワイワイ、ニコニコ、ドキドキ、ハラハラ、モグモグ、ゴクゴクと、園内は約600名の参加者で埋まり、夏まつりを堪能している様子を見て、西中田保育園が如何に地域に根ざし高松園長のもと、職員、スタッフの皆さんが頑張っておられるんだな〜と、感じ入りました。そして、学び愛でした…。



7～8月の主な予定

日程	内容
7月21日（木）	国際協力募金委員会 時間：19：00～ 場所：YMCA 立町会館
7月21日（木）	YMCAジュニアクラブ 夏季プログラム開始
7月31日（日）	公益財団法人の支援事業 山元町特別養護老人ホーム「みやま荘」夏祭り支援
8月 9日（火）	仙台ワイズ第2例会
8月19日（金）	4ワイズ合同例会 場所：ホテル JAL シティ仙台
8月22日（月）	クリスマス実行委員会 時間：19：00～ 場所：YMCA 立町会館
8月24日（水）	チャリティゴルフ実行委員会 時間：19：00～ 場所：YMCA 立町会館



編集後記

前任者の加藤さんから受け継いで作成したブリテン。ワードでの作業は、なかなか大変なものが、少しでも読みやすいように、見やすいように頑張ってお参りたいと思います。どうぞよろしくおねがいいたします。Y. S